

2023年8月21日(月) 滞在1日目 学部2年生 K.F

1日目は、大分駅に集合し、博多駅に向かい福岡空港から韓国に移動しました。一か月前に日本に来てくれた韓国の学生と先生方との再会をととても楽しみにしている半面、コロナ明け久々の海外で、税関などを通過できるかなどの不安もありました。福岡空港まで先生方とともに無事に到着し、搭乗手続きまで終えることができ、いよいよ搭乗です。席がばらばらで申告書を一人で書くことになり不安でしたが、みんなで連絡を取りながら書き、乗り切りました。CAさんに韓国語で話しかけられた時には韓国に行くのだという実感がわいたとともに、コミュニケーションが取れるかの不安も出てきました。飛行機に乗るタイミングで、韓国の学生から連絡が来てさらに楽しみになりました。

飛行機は悪天候のせいで30分ほど遅れて出発し、およそ1時間で到着しました。不安だった税関も通過し、荷物をもって出口へ行くと、蔚山大学の学生と先生方が出迎えてくださいました。大分での5日間でもかなり距離を縮めることができていたので一か月ぶりの再開でそして、こんなにも仲良くなることができた海外の友達は初めてだったので、とても感動しました。



バスでホテルに向かい夕食を食べに行きました。バスの中では、一か月会うことができなかつた間に何をしていたかなど充実した夏休みの話をすることができました。しかし、一か月英語を話していないと、なかなか単語が出てこなくて会話をスムーズにすることが少し難しくなっていました。英語は少しずつでもいいから毎日続けるべきだなと感じました。夕食はサムゲタンという韓国料理を食べました。若鶏が一匹そのまま入ったスープで、若鶏のお腹の中にご飯や野菜が入っていました。スープがあっさりしていてとてもおいしかったです。



1日目は移動がほとんどでしたが、韓国の学生との再会のうれしさや英語でのコミュニケーションの難しさを感じることができました。



2023年8月22日(火) 滞在2日目 学部2年生 Y.Y

派遣2日目は、午前中に蔚山大学の見学、午後に労働安全に関する施設と蔚山大橋展望台を見学しました。

まず、朝に大学バスで蔚山大学のキャンパスへ向かい、歓迎セレモニーをしていただきました。その後、韓国の保健医療に関する講義を40分程度受けました。韓国の看護師は3交代制であることや、病院生活を家族がともに過ごし、家族からもサポートを得る習慣があることなど日本と違う韓国の看護の特徴を学びました。それから、韓国の学生が7月日本に来た際に学んだことや経験したことを英語で発表してくださいました。



その後、大学の図書館ツアーをしていただきました。図書館ではたくさんの学生が利用する様々な工夫がされていました。例えば、靴を脱いで利用できる勉強スペースや、おしゃれなカフェのような勉強スペースもありました。図書館の一角に、画面と椅子が用意してあるバーチャルで就職面接の練習ができる部屋があり、画期的で驚きました。大学の中には、大学創設から今までの歴史がまとめられた歴史館があり、見学しました。図書館や勉強スペースも夏休み中ですが学生が利用しているようでした。

お昼になり、大学から少し歩いてイタリアン料理の昼食会場に移動しました。昼食は蔚山大学の学生交流をサポートしてくださっている大学2年生の皆さんも一緒に食べました。昼食を終えたらバスに乗って、労働安全に関する施設に移動しました。その施設は、1987年に作られ、仁川から蔚山に移動されてできたそうです。実習室は26部屋あるそうで、実際の現場と同じ施設が忠実に再現されていて驚きました。そのように現場と同じ実習室を使うことで練習が行いやすいそうです。その中で数か所の実習室を見学しました。1つ目の実習室は、住宅の壁が用意されていて、石綿に似せた物質を壁の間に入れており、その安全な取り出し方を練習する施設の様でした。石綿は現在は使用されていませんが、過去に暖房剤として使われていたことがあったため、肺がんなどを防ぐために練習を行なっているそうです。2つ目の実習室は重いものを持つときの練習を行う場所でした。工事作業では重

い荷物を持つときや、看護師であれば患者を移動させるときのように腰に負担がかかるときは機械を使うようにしているそうです。実際に看護師は腰痛を持っている人が多いため、日本でも取り入れられるとよいのではないかと感じました。3つ目の施設は騒音を防ぐための場所でした。実際の騒音を録音して、作られた建物の中で音を流すことで、建物の騒音を確かめ、防音対策しているそうです。最後に見学したのは、建設安全実習室です。1年間で発生する事故の中で、建設に関連する事故が半分を占めるそうです。実習室では実際の建設現場を再現し、作業員と同じ服を着た模型も設置されていました。安全に建設を行うために網を設置したり、落下に備えて縄を付けたりされていました。その中でもタバコを吸いながら建設作業をしている模型があり、その下にははてなマークが書いてありました。そのはてなマークは、実際に学生がその状況を見て、どのような部分が事故につながるか考えられるように工夫されているとわかり、ただ安全な方法を学ぶだけでなく、どのようなことが危険なのかやなぜそれをしていけないのかを学ぶことはとても良いと感じました。



その後、バスで蔚山大橋展望台に向かいました。展望台から景色を見ながら、施設の方に、蔚山の街を説明していただきました。晴れており見晴らしがよく、蔚山の街を 360 度眺めることができました。

夕食はレストランでプルコギをいただきました。私はプルコギは牛肉のイメージでしたが、韓国ではアヒルのお肉を使っていると聞いたので驚きました。お肉やキムチなどを一緒に野菜で包んで食べるのが韓国流だと韓国の学生に教えてもらいました。最後は鉄板に残ったプルコギの汁に白米を入れて炒飯にして食べるのが主流だと知り、初めて食べましたがとてもおいしかったです。

研修 2 日目は蔚山大学と私たちの大学の違いを見て感じたり、労働安全に関する施設で実際に機材を見せてもらったりと、とても新たな発見の多い一日でした。

2023年8月22日(火) 滞在2日目 学部2年生 R.N

2日目は、ウルサン大学を訪問し、ウェルカムセレモニーを開いていただき、ウルサン大学の2年生数十名が私たちを歓迎してくださいました。韓国の病院の看護制度についての講義を受けました。看護師の一日の仕事について、朝(6:30~15:30)・昼(14:30~23:30)・夜(22:30~7:30)の時間で3交代制であることや、韓国の看護師の病棟担当患者数は約10~18人と多く、問題になっていることを学びました。

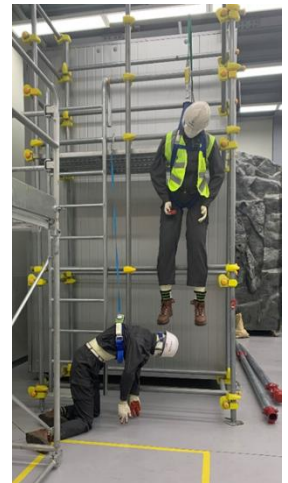
ウルサン大学の図書館は建物が2つあり、一人で模擬面接ができるスペースや横になって本を読むことができるスペース、友達とディスカッションすることができるスペースなど、学生の勉強にとっても役立つ場所が多くありました。

お昼ご飯は、パスタやピザ、チキンなどを食べました。パスタはロゼクリームパスタでした。ロゼクリームは牛乳とトマトソースを混ぜたもので、韓国で人気があるソースであるということを教えてもらいました。チキンははちみつがかかっているものでした。



次に、労働災害を防止するための施設に訪れました。韓国で1年に発生する事故の約5割は建設現場で起こっているようです。この写真は、建物を作るときに命綱を高いところにつけなければ落ちてしまったときに怪我をしてしまうということがわかる人形です。

他にも、反応速度を測定して自分の記録と世界平均を比べ、反応時間が遅くなるほど事故への対応が遅くなってしまいうため、そのことを理解するための道具などもありました。労働災害を未然に防ぐための施設は聞いたことがなかったので、話を聞いていて理解が難しいことが多くありましたが働く人の健康のためにとっても良い施設だと思いました。



次に、東洋で3番目に長い単径間吊り橋であるウルサンブリッジを訪れ、蔚山大橋展望台に上りました。高さが63mあり、ウルサンブリッジと蔚山の3大産業である石油化学、自動車、造船産業団地や蔚山7大名山を眺望することができました。

夜ご飯はプルコギを食べました。数種類の野菜とアヒルの肉が炒め物をキムチなどと一緒にえごまの葉やレタスで巻いて食べました。この料理はお米やニラと一緒に炒めて

ボクンバップという名前のチャーハンのようなものにして食べました。日本の鍋のシメに雑炊を作る感覚と似ていて親近感がわきました。韓国の料理はどれも辛すぎて食べられないものだと思っていましたが、とても美味しくいただくことができました。

2023年8月23日(水) 滞在3日目 学部4年生 T.K



交流三日目の施設見学として、保健所に向かいました。

韓国には保健師の国家資格はなく、看護師が働いています。伺った保健所では認知症安全センターを運営しており、認知症に着目して活動している様子でした。主な業務は地域保健医療の計画、保健管理、感染症の予防、生活習慣病予防などの健康促進もしているとの事でした。

禁煙事業部

禁煙したい人に向けての相談や、禁煙指導のために訪ねて教育したりする部署です。主な対象者は喫煙している妊産婦であり、通いながら禁煙にむけて努力しています。日本で言う禁煙外来のようなものだと感じました。



認知症安心センター

認知症にかかった高齢者に来てもらってプログラムに参加してもらえます。認知症を疑っている方に対しても検査し、診断することもできます。一般の方向けに認知症の認識改善の活動も行っています。具体的には、SNSやブログをつかって認知症によくある症状を教えたり、施設に来てもらうことで体験をしてもらったりします。若者に初期の認知症の症状を知ってもらうことで、家族や他の人の早期発見に繋げるなど早期発見にも力を入れているようでした。また、認知症の人を街で見つけたらどうするか?という対応まで教育しています。

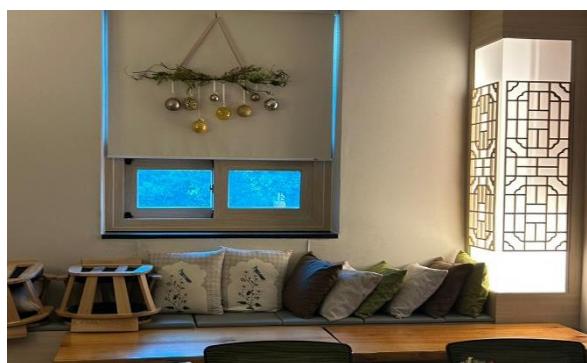


心理安定室；

気分を落ち着かせるための部屋。認知症の患者に見られる症状として BPSD という行動心理症状が挙げられます。ストレスや不安感などから暴力的・落ち着きのない様子になることです。そういった行動を落ち着かせるためにリラックスできるような環境を作っているとのこと。

休憩室：

韓国伝統チックな雰囲気な患者と保護者が話す部屋。韓国の伝統にのっとり、使用する際は椅子や机をなくして床にてお話をしてもらいます。



施設見学も終了し、夕食後には日本の学生と韓国の学生の 12 名で韓国の学生のおすすめのカフェに行きました。

韓国のカフェは日本とは違い大体 20-21 時まで空いていたのでゆっくりお話しすることが出来ました。

行きたい場所や興味のあることを伝えると、韓国の学生さんが調べて案内してくださって、店内でもレジの補助をしてくださるなどすごく親切で助かりました。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



2023年8月23日(水) 滞在3日目 学部4年生 A.M

Ulsan University Hospital/Lunch/Public Health Care Center

～Ulsan University Hospital～

(<https://www.uuh.ulsan.kr/kr/index.php?pCode=foundidea>)

「大学病院概要」

蔚山大学病院を見学しました。まず、教育事務長から病院説明を受けました。2日目に引き続き、本日も翻訳の方が韓国語での説明を日本語に変えて私たちに伝えてくれました。説明の他に、蔚山大学についての動画を視聴しました(<https://youtu.be/gOG2u5ND1eo>)。動画はすべて韓国語でしたが、映像から病院



の雰囲気は感じられました。蔚山大学病院は、生命への敬意と人間への愛の精神に基づいています。設立理念は峨山精神。患者中心の信頼できるケア、創造的な研究、誠実な教育、地域社会への奉仕、次世代のための環境保護を実践することにより、人々の健康と生活の質の向上に貢献することを理念として掲げています。病床数は979で、蔚山の上級総合病院です。職員は病院全体で3174人、そのうち看護部は1724人(看護師1428人)、それ以外は206人で構成されています。



「看護部概要」

2023年の看護部の目標は、「えびせん みんなで跳ぼう!」。テーマはKEY Knowledge Equal Yes。看護本部は、人間尊重のもとに最強の看護を提供し、人間の幸せな暮らしに寄与することを理念としています。先端サービスで患者に感動させる実践的な看護や、話し合える環境、誇りを持って働ける環境等を大切にしていました。

「新人看護師教育」

新人看護師教育では、一対一のプリセプター教育を取っています。プリセプターとプリセプティーで仲を深め、組織をより良くするために、「こここ」という組織があ

ります。病院の内外での交流活動を評価し、チームランキングをつけているようです。また、先輩看護師だけではなく、新人看護師が不安や悩みを同期と話せるように工夫されています。病院内だけではなく外にも出て仲を深めているようです。外に出る場合はチームメンバー全員が同じ日に休暇を取れるそうです。他にも、新人看護師が勤務してから100日経ったらプレゼント渡す行事があるようです。看護部組織が新人看護師にとって働きやすい環境となるように、様々な工夫がされていることがわかりました。新人教育として、QRコードを使った教育サービスを作り、実践していることも聞きました。時間や場所に関わらず、いつでもサービスを使えるようにしたことで、病院内の機器の使い方をマスターできるようになった等、職員の質も上がったようです。

「その他のプロジェクト」

新人だけではなく、経験のある看護師へのプロジェクトも紹介がありました。看護職員それぞれが尊敬する看護師を選び、多く選ばれた人にプレゼントが渡される、「宝石を探す」というプロジェクトです。長く働いている看護師が、自尊心を持って働けるように工夫しているようです。他にも、看護職員が感謝している人や一緒に働きたい人に手紙を書いてそれを申請すると、その人々に手紙とプレゼントが渡されるサプライズプロジェクトや、3000日「DAY with you」という、看護師として働いて9年経歴がある人にプレゼントを渡すプロジェクトがあり、看護職員1人1人が尊敬されてるなど感じられるように工夫している内容の紹介がありました。職員全員が高い志を持ち、長く働ける職場を目指し、様々な工夫が施されていることを知りました。

これらの様々なプロジェクトは申し込み制だそうです。彼らは新しいプロジェクトをさらに作るべきだと感じていました。彼らの努力により、退職率が26%から10%に下がったようです。プロジェクトは業務時間内に行われますが、勤務時間外になると延長勤務として扱っているようです。

「病院見学」

説明を受けた後、病院内を見学しました。看護介護統合病棟（3階37病棟）、特殊陰圧集中治療室（1階、緊急医療センター）等に行きました。見学人数を減らすために、日本の学生のみが参加し、韓国の学生とは別行動でした。韓国の学生の中には、緊急医療センターに行ったことがないという学生も多く、そのような貴重な経験を私たちがさせていただけることにありがたい気持ちでいっぱいでした。

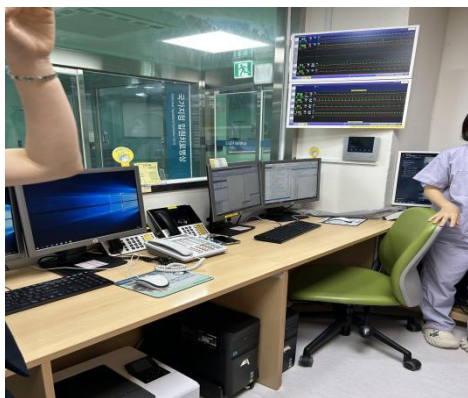
・看護介護統合病棟（消化器内科）

47 ベッドをチームで看護しています。1人6-9人の患者を担当します。日本の看護体制から考えると、この数を少ないと感じないかもしれませんが、一般的な韓国の病院では看護師の病棟担当患者数は約10~18人と多いため、ここの病棟の担当患者数は少ない方です。患者さんの平均入院期間は、5日間くらいです。韓国でも入院期間短くなっていています。ここでは、看護師以外に病棟向上員や専門看護師が働いています。介護士はいないようです（昔はいたが、職種自体がなくなってきている）。病院の職員としてはいませんが、個人的に介護支援者を雇えるようです。蔚山大学の先生方から聞いた韓国の看護体制についての説明の中で、「看護介護統合サービスは、保護者なしで看護師と准看護師、介護支援人材がチームを組んで患者に包括的なケアを提供する入院サービス」だと聞きましたが、この病棟はそれとは違うように感じました。病室には、生活介助をしている患者さんのご家族の姿が見られました。



私たちが病棟の部屋配置で驚いたことは、看護師長の部屋があったことです。その部屋には冷蔵庫もありました。蔚山大学病院にはありましたが、韓国においても師長室があるかどうかは病院によって様々なようです。

・陰圧室, コロナ集中治療室



この特殊陰圧室はコロナ対応のために作られました。これができたことで、これから新たな感染症が流行っても対応できると期待されています。現在はコロナウイルス感染者の中でも重症な患者さんを陰圧室で治療をしているようです。観察カメラで患者さんの様子を観察できます。コロナ集中治療室は蔚山では一つしかないようです。コロナウイルス流行時は大変だったと聞きました。その当時は蔚山市内で感染症の管理担当して

いる専門機関からマニュアル等の指導を受けていたようです。流行時は他の部署の看護師や医師に支援をしてもらったと聞きました。

・緊急室



左の写真は、inipharm(Automated dispensing cabinet, 自動調剤キャビネット)という機械です。病院と連携されていて、登録されている患者の薬は薬局に行かなくてもここから取り出せます。エラーに対応できるようにカメラが上部に設置されていました。麻酔なども収納されているためカメラ必須です。機器の使用後はすぐにログアウトされるようになっていました。この部屋は、薬物を安全に保管するためにエアコンの温度等が特別に設定されてあるためドアが閉められています。薬剤師が週に3回来て、使用期限等の薬の管理をして

いと聞きました。手術室や緊急室のみにこの機械は置いてあります。その時々で患者さんに必要な薬を素早く提供するためです。そのため、保管されている薬は緊急の薬のみであり、普通の錠剤等は置いていません。



また、薬局から病院に直接薬を送る機械がありました。血液検査の検査等もこれを利用して送ったり受け取ったりできるようです。職員が病院と薬局を行ったり来たりする必要がないため、業務の効率も上がると聞きました。

～Lunch～

Hongbosuk という Chinese Restaurant に行きました。ジャージャー麺やちゃんぽん等から一人一品選びました。YouTube 等で見えていたジャージャー麺やタンスユクを食べることができて嬉しかったです。



～Public Health Care Center (健康生活支援センター)～



健康生活支援センターの職員の方々から施設や事業の説明を受けました。韓国には、保健所が全国に 298 箇所あり、健康生活支援センターは 95 箇所あるようです。南部地方は保健所が 1 つしかなく困っており、保健所を拡大しようとしたけれど、人材の確保も土地の確保も難しかったようです。そのため、法律にて根拠を準備し、この施設を作ったと聞きました。健康増進の法律が

2015 年にでき、2017 年に資金を得て、2018 年にこの施設が建てられました。11 人の職員（公務員 7 人、栄養士 1 人、看護師 1 人、リハビリ 1 人、運動指導 1 人）がこの施設で働いています。一階には筋トレができるようにトレーニング室があり、二階には事務室、料理室、運動室等がありました。南部の住民数は現在 31 万 5100 人で、50 歳代が一番多いようです。南部の人々の死亡要因の一位が悪性腫瘍、二位が心疾患、三位が脳血管疾患であり、これらの原因である肥満や高血圧、糖尿を管理するために、健康促進サービスの充実と運動・食事をサポートしていると聞きました。



肥満傾向の人と高血圧の人を分けて指導をしているようです。月から金までのプログラムを準備したり、生活管理のためのゼミを開講したりしており、健康管理不足であると自覚している住民や、健康データから職員により参加を促された住民がそれらに参加しています。また、この施設だけではなく地域社会と連携して他のプログラムを企画し、地域に根差した場所でプログラムに参加してもらうこともあるようです。その他、一人暮らしの高齢者や障害者の方々を直接訪ねて健康を管理していると聞きました。

2023年8月24日(木) 滞在4日目 学部2年生 R.T

派遣4日目の8月24日は、一日中観光の日でした。海東龍宮寺と、デパートに行きました。

朝ホテルのロビーに集合し、ウルサン大学のツアーバスで出かけました。コロナ前の派遣でも訪れていたお寺に到着しました。そのお寺の山門は日本の山門とは異なり、カラフルな山門でした。(右の写真)しかしただ派手なだけでなく、伝統模様もあしらわれた、美しい山門でした。

山門の前にそれぞれ2mほどの十二支の石像が順番に立っていました。通訳さん(ウルサン大学の学生)が自分の干支との写真を撮ることを提案してくれました。そこで、皆、自分の干支と写真を撮りました。その後、景色の良いところで写真を撮ったり、小さな洞窟の中に入ったりしました。



次に訪れたのは、デパートでした。世界一大きいデパートとしてギネス世界記録に登録されているデパートです。とても広かったです。みんな、そこで自由に買い物をしました。買い物をする時にはウルサン大学の学生さんが一緒にいてくれるので、スムーズに買い物ができました。本当にウルサン大学の学生さんたちは私たちに優しく、親切にしてくれました。前の日(8月23日)までに施設見学を終え、学習とは一歩離れた観光を一日中楽しみ、大変充実した日となりました。



2023年8月25日（金） 滞在5日目 学部2年生 K.F

最終日は移動がほとんどでした。ホテルに朝早くから蔚山大学の教授の方、学生が見送りに来てくれました。空港までの移動に時間がかかるため、ホテルでのお別れは短い時間となりました。もっと会話がしたかったのですがとても悲しかったです。しかし、連絡を取ることができているので、この関係を続けていきたいと思います。



空港に到着し、搭乗手続きをしました。飛行機に持ち込んではいけないものを預け忘れてたり、荷物が制限を超えてしまったりハプニングがありましたが、時間に余裕を持っていたので解決することができました。



韓国最後の買い物はコンビニでキンバを買いました。日本という海苔巻きで最後まで韓国を感じていました。飛行機の中ではこの5日間の思い出の写真を見ながら振り返っていました。韓国に旅行に行くことはまたあるかもしれませんが、病院や保健センターなどの医療施設にはもう行くことができないと思います。そのくらい貴重な体験をすることができた事のうれしさと、このプログラムを実施して下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。日本との医療の違いを実際に見て感じる事ができた私たちが何かできることは無いかな、このプログラムの延長線上で考え、取り組んでいければいいなと思います。

